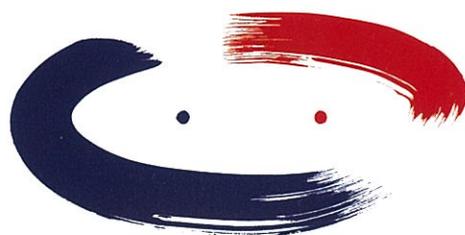


2009

KAMPO NETWORK FORUM IN TOKYO



KEIO 150

Design the Future

150th Anniversary in 2008

明治記念館 曙の間
2009年8月22日(土)
4:30~6:30 PM

KAMPO NETWORK FORUM IN TOKYO 2009

挨拶

慶應義塾大学医学部漢方医学センター

渡辺賢治センター長・准教授

慶應義塾大学病院漢方クリニックに対し、平素より格段のご支援をいただき、誠にありがとうございます。

慶應における漢方医学の歴史は、平成2年にはじめて漢方診療相談室が開設され、その後平成5年に中央診療施設の1つとして漢方クリニックとなり、それにともなって同年ツムラ東洋医学寄附講座が設立されました。

一方永年株式会社ツムラにお世話になった寄附講座は、平成20年4月に、末松誠現医学部長の御尽力により、漢方医学センターとして、慶應義塾大学医学部の正式な組織となり、1年を迎えることができました。

診療の方も、皆様からの御支援を賜りながら、年々患者数は増加の一途をたどっており、今後ますます漢方医学の必要性が注目される中で、本学が担う役割は重要であることは十分認識しております。今後さらに、慶應漢方医学が発展していくためには慶應医師会を中心とした、都下の先生方のご協力なくしては実現できないものと考えております。

今後も引き続き、慶應義塾大学病院医療連携室と協力しながら、漢方医学の発展に力を尽くしたいと考えております。

皆様におかれましては、どうぞ、これからも格別のご支援、ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

漢方医学センター

慶應義塾大学病院漢方クリニックに対し、平素より格段のご支援をいただき、誠にありがとうございます。

本日は、慶應義塾常任理事の戸山芳昭先生、病院長の武田純三先生のご挨拶に始まり、演者の田先生、柳川先生、栗原先生、大橋先生、田島先生、桜岡先生からは貴重なご講演を賜り、また、座長の労をお取りいただきました、秋葉先生、福澤先生、西村先生には会の進行がスムーズに行ったことを御礼申し上げます。

身内への挨拶

慶應における漢方医学の歴史は、平成2年にはじめて漢方診療相談室が開設され、その後平成5年に中央診療部の1つとして漢方クリニックとなり、それにとまってツムラ東洋医学寄附講座が設立されました。

同様に

平成20年4月には、末松誠現医学部長の御尽力により、長年お世話になりました株式会社ツムラの寄附講座から、漢方医学センターとなり、慶應義塾大学医学部の正式な組織となり、1年を迎えることができました。また、本年から診療クラスターのひとつとして医学部、病院にまたがる形で、漢方医学センターが位置づけられるようになりました。

診療の方も、皆様からの御支援を賜りながら、年々患者数は増加の一途をたどっており、嬉しい悲鳴ながら診療連携を密にしていく以外には方法がないほどとなっております。問題は漢方に関して紹介を受けてくださる診療施設が少ないことでもあります。そこで本会をまず手始めに、診療連携を深めることを構想しております。

ではスライドをお願いします。

慶應義塾大学医学部には比企会長の下、三四会、慶應医師会、ならびにこれからご挨拶を頂戴いたします北原病院経営業務執行役員をはじめ慶應義塾大学病院医療連携室があります。医療連携室からは本日も多数お手伝いに来ていただいております。こうした力強いネットワークが既に出来ておりますので、その上を仕組みを利用させていただきながら、漢方のネットワークを発展させていきたいと思っております。

はじめに今津から話がありました通り、患者さんのほとんどが都内の方です。まずは東京のネットワーク作りを始めて、そのモデルを全国に広げられれば良いと考えております。

コモン・ディゼーズがしっかり診療できれば医療の問題の8割が片付くといわれております。漢方医学はまずここには絶対に必要なものと考えております。しかしながら難治性疾患に漢方が無力なわけではありません。この場合難治性疾患には西洋医学的難治の場合と漢方的に難治な場合がございますが、こうした疾患は漢方クリニックでしっかり診て行きたいと思っております。

させたい

今後コモン・ディゼーズを中心に先生方との連携を深めながら、慶應全体の漢方診療力のボトムアップを図っていくことこそ、患者さんのためであると信じております。

今後は定期的な勉強会等開催していき、先生方と顔の見える、患者さんのキャッチボールを図れば幸いです。

申しあげます

皆様におかれましては、どうぞ、これからも格別のご支援、ご鞭撻をいただき、よろしくお願い申し上げます。

と